

SHOWA fine various reagents



## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当

TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2023/03/01  
SDS整理番号 05211330

製品等のコード : 0521-1330、0521-1300、0521-1350

製品等の名称 : N-エチルモルホリン塩酸塩

推奨用途 : 試薬

参考 : その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) 有機合成原料、合成中間体、医薬・医薬中間体、はんだフラックス など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性  
可燃性固体 : 区分に該当しない  
自然発火性固体 : 区分に該当しない  
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない  
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性  
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報  
皮膚刺激  
強い眼刺激

#### 注意書き

##### 【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

##### 【応急措置】

皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹸で洗うこと。  
眼に入った場合 : 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

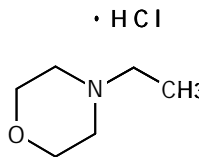
気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚刺激が生じた場合 : 医師の診察、手当を受けること。  
眼の刺激が続く場合 : 医師の診察、手当を受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

##### 【保管】

湿気、日光を遮断し、冷暗所に保管すること。  
吸湿性があるので、使用後は速やかに密封して保管すること。  
開封後は速やかに使用すること。

##### 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。



アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

N - エチルモルホリン塩酸塩〔4 - エチルモルホリン塩酸塩〕

改訂日:2023/03/01

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学名、製品名	: 化学物質 : N-エチルモルホリン塩酸塩 (別名) 4-エチルモルホリン塩酸塩、エチルモルホリン塩酸塩 (英名) N-Ethylmorpholine hydrochloride、 4-Ethylmorpholine hydrochloride(IUPAC Name)、 Ethylmorpholine hydrochloride
成分及び含有量 化学式及び構造式	: N-エチルモルホリン塩酸塩、98.5%以上(乾燥後) : C <sub>6</sub> H <sub>13</sub> NO·HCl、C <sub>6</sub> H <sub>14</sub> ClNO 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量 官報公示整理番号 化審法	: 151.64 : (5)-860「N-エチルモルホリン」、 (1)-215「塩酸」 本品はN-エチルモルホリンの付加塩またはオニウム塩であり、 新規化学物質として取り扱わない物質である(既存化学物質扱い)。
CAS No.	: 未登録。 N-エチルモルホリン : 100-74-3 塩 酸 : 7647-01-0
危険有害成分	: N-エチルモルホリン塩酸塩

4. 応急措置

吸入した場合	: 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	: 直ちに水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して居る場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 目の刺激が持続する時は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	: 直ちに水で口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 必要に応じて医師に連絡する。 気分が悪い時は、医師の診察、処置を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状: 情報なし

【参考 N-エチルモルホリン〔CAS No.100-74-3〕の情報】

吸入	: 咳、咽頭痛、息苦しさ 症状は遅れて現われることがある。
皮膚	: 発赤
眼	: 発赤、痛み、かすみ眼

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂など 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	: 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。) : 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	: 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する 安全に対処できるならば着火源を除去する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 風上より消火し、環境へ流出しないよう漏洩防止処置を施す。
消火を行う者の保護	: 消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め適切な防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:  
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。

<p>環境に対する注意事項 回収、中和</p> <p>封じ込め及び浄化の方法</p> <p>二次災害の防止策</p>	<p>： 眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。 風上に留まる。 低地から離れる。</p> <p>： 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。</p> <p>： 機材： 危険でなければ漏れを止める。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 近くに裸火源、発火源があれば、速やかに取除く。 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。</p>
--	---

7. 取扱いおよび保管上の注意

<p>取扱い</p> <p>技術的対策</p> <p>局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項</p> <p>接触回避</p> <p>保管</p> <p>技術的対策</p> <p>混触危険物質 保管条件</p> <p>混触危険物質 容器包装材料</p>	<p>： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 粉じん、ミスト、蒸気などの発生を防止する。 粉じんの堆積を防ぐ。</p> <p>： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 裸火厳禁。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 接触、吸入又は飲み込まない。 皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こすことがある。 目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付ける。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>： 炎、火花、湿気、水または高温体との接触を避ける。</p> <p>： 保管場所には換気装置を設置する。 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 強酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など）、強アルカリ</p> <p>： 高温多湿を避け、乾燥した冷暗所（1～15℃）に保管する。 光のばく露により変質するおそれがあるため、遮光した容器を使用するか日光、室内光を避け、暗所に保管する。 吸湿性があるので、使用後は十分に空気を抜き、密封して保管すること。 開封後は速やかに使用すること。 品質管理上、夏季気温が上昇して吸湿がすすむと品質劣化し、種々の問題が発生する場合がありますので、保管には十分な配慮が必要である。</p> <p>： 強酸化剤、強アルカリ性物質 ： ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど</p>
---	--

8. 暴露防止及び保護措置

<p>管理濃度</p> <p>許容濃度（ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH</p> <p>設備対策</p> <p>保護具</p> <p>呼吸器の保護具</p> <p>手の保護具</p> <p>眼の保護具</p> <p>皮膚及び身体の保護具</p> <p>衛生対策</p>	<p>： 設定されていない。</p> <p>： 生物学的ばく露指標）： 設定されていない。 設定されていない。</p> <p>： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。</p> <p>： 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。 ： 保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。 ： 眼の保護具（ゴーグル型保護眼鏡）を着用する。 ： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、長靴を着用する。</p> <p>： 取扱い後はよく手を洗う。 取り扱い中は飲食、喫煙はしない。 汚染された作業衣は作業場から出さない。</p>
--	--

9. 物理的及び化学的性質

<p>物理状態 性状</p>	<p>： 結晶又は結晶性粉末</p>
--------------------	--------------------

色	: 白色～微黄褐色
臭い	: データなし
pH	: 弱酸性 (5wt%水溶液)
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度 (空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: データなし
比重	: データなし
溶解度	: 水に可溶
オクタノール/水分配係数	: データなし
発火点	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

GHS分類

可燃性固体	: 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.1 (可燃性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	: 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	: 空気との接触により自己発熱性がなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.2 (可燃性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
水反応可燃性化学品	: 本品は水に可溶であり、水に対して安定である (水との混触で可燃性ガスの発生がない) と考えられるので、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

: 通常取扱条件において安定である。  
 吸湿性があるので、使用後は容器を密閉する。  
 吸湿すると、ブロッキングがおきる (固まりの発生)。  
 光により変質するので、遮光保管する。

危険有害反応可能性 : 多くの金属 (特に銅及び軽金属類) に対し腐食性がある。  
 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。  
 強アルカリと混触すると反応することがある。

避けるべき条件 : 日光、光、高熱、湿気、火気  
 混触危険物質 : 強酸化剤 (硝酸塩、過酸化剤、過塩素酸塩等)、強アルカリ  
 危険有害な分解生成物 : 燃焼で熱分解すると、ハロゲン化物、窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素が発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 分類できない。 飲み込むと悪心、嘔吐などを起こすことがある。 経皮 分類できない。 吸入 (蒸気) 分類できない。 吸入 (粉じん) 分類できない。 粉じんを吸入すると、のど、気管、鼻の粘膜を刺激するおそれがある。
皮膚腐食性/刺激性	: 本品はEU-CLP, Annex 1、でリスク分類されていないが、皮膚刺激があるので、区分2とした。 皮膚刺激 (区分2)
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: 本品はEU-CLP, Annex 1、でリスク分類されていないが、強い眼刺激があるので、区分2 Aとした。 強い眼刺激 (区分2A)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない。
生殖細胞変異原性	: 分類できない。
発がん性	: 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性	: 分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 分類できない。 本品はEU-CLP, Annex 1、でリスク分類されていないが、単回ばく露に

- より、呼吸器への刺激が生じることがある。
- 特定標的臓器毒性  
(反復ばく露) : 分類できない。  
反復ばく露により、不快感、吐き気、咽頭痛、咳、頭痛が現れることがある。
- 誤えん有害性 : 分類できない。
- 参考【N-エチルモルホリン〔CAS No.100-74-3〕のデータ】
- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 1,500-2,000 mg/kg  
飲み込むと有害(経口)(区分4)  
経皮 データ不足のため分類できない。  
吸入(蒸気) ラット LC50(4時間) = 2,000 ppm  
吸入すると有毒(蒸気)(区分3)  
吸入(ミスト) 分類できない。
- 皮膚刺激性/刺激性 : ウサギを用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404相当)において、  
本物質の1-15分又は20時間適用により、投与後24時間後に赤斑、  
浮腫等の中等度から重度の刺激性が観察され、8日後には5分以上  
の適用により壊死が観察された(SIDS(2007))。以上の記述から  
本物質は腐食性を持つと判断し、区分1Bとした。  
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷(区分1B)
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405相当)において、本物質  
0.05mLの適用により、紅斑、浮腫、角膜混濁が観察され、紅斑及び  
浮腫は投与後24時間まで、角膜混濁は投与後8日後まで持続した。  
また、ヒトにおいて本物質40 ppm以上のばく露により回復性の角膜  
浮腫がみられたとの報告(ACGIH(2001)、SIDS(2007))や、眼を  
刺激し視覚の乱れを生じることがある(環境省リスク評価第7巻：  
暫定的有害性評価シート(2009))との報告がある。本物質を扱う  
労働現場において、眼の刺激や角膜障害、色覚への影響等が報告さ  
れている。本物質は皮膚腐食性/刺激性の分類で区分1Bとされて  
いる。以上の結果より区分1とした。  
重篤な眼の損傷(区分1)
- 呼吸器感受性 : 分類できない。  
皮膚感受性 : 分類できない。  
生殖細胞変異原性 : 分類できない。  
in vivoのデータはなく、in vitroでは、哺乳類培養細胞の染色体  
異常試験で陰性、細菌の復帰突然変異試験では陰性及び弱い陽性  
であった(厚労省既存化学物質毒性データベース(2014)、SIDS  
(2007)、NTP DB(2014))。
- 発がん性 : 分類できない。  
知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際  
評価機関の報告がないため、分類できないとした。
- 生殖毒性 : 分類できない。  
ラットを用いた経口経路(強制)での簡易生殖毒性試験(OECD TG  
421)において、親動物毒性(一過性の流涎、体重増加抑制、摂餌量  
低下、雌1例哺育2日に死亡)がみられる用量(500 mg/kg/day)で  
有意差はないが着床数、着床率の低下、死亡児2匹を妊娠24日に出産  
した母動物1例がみられ、有意差はないが出生生児数、生児出生率、  
出生率の低下がみられた(厚労省既存化学物質毒性データベース  
(2014)、SIDS(2007))。
- 特定標的臓器毒性  
(単回ばく露) : ヒトにおいては、吸入経路で、気道への刺激が主な影響である  
(環境省リスク評価第7巻：暫定的有害性評価シート(2009)、SIDS  
(2007)、ACGIH(7th, 2001)、HSDB(2014))。  
ラットでは、飽和濃度(1,100 ppm)近傍で吸入ばく露の結果、  
呼吸困難、粘膜の強い刺激性、震え、よろめき歩行、経口投与に  
より、痙攣、腹及び横臥位姿勢、出血性胃炎、1,000 mg/kg以上の  
用量で、強直性及び/又は間代性痙攣、その後、自発運動低下がみ  
られた(SIDS(2007))。この影響は、吸入ばく露の場合、区分1、  
経口投与の場合、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。  
以上より、ラットでは比較的強い影響が報告されているが、ヒトの  
知見で同様の影響が報告されておらず、神経系への影響、気道刺激  
性が主な影響であることを重視し、区分2(神経系)、  
区分3(気道刺激性)とした。  
神経系の障害のおそれ(区分2)  
呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
- 特定標的臓器毒性  
(反復ばく露) : ACGIH(7th, 2001)及び環境省リスク評価第7巻：暫定的有害性  
評価シート(2009)には、ヒトでの職業ばく露による有害性の知見  
がいくつか掲載されているが、殆んどが他物質を含む急性ばく露影

響に関する報告であり、SIDS (2007) にはヒトの反復ばく露影響に関し、利用可能なデータはないと記述されている。実験動物ではラットに28日間強制経口投与した試験 (OECD TG 407) において、200及び800 mg/kg/day投与群でケージ舐め及び咀嚼様動作がみられ800 mg/kg/day投与群では振戦、閉眼、うずくまり姿勢、体重増加抑制に加え、肝臓及び腎臓への影響として、相対重量の増加及び組織変化 (小葉中心性肝細胞肥大、尿管上皮の空胞変性) が認められた (SIDS (2007)、厚労省既存化学物質毒性データベース (2014)、環境省リスク評価第7巻: 暫定的有害性評価シート (2009))。SIDS (2007) 及び環境省 (2009) の評価では200 mg/kg/day (90日換算値: 62.2 mg/kg/day) での行動変化を有害性影響として、NOAELを50 mg/kg/day と決定している。すなわち、200 mg/kg/day 投与群における行動変化 (ケージ舐め及び咀嚼様動作) は雄で5例中1~2例、雌で5例中1~4例に観察される間欠的な症状変化で、必ずしも全例にみられた症状ではないが、一種の常同行動とみなされる変化であり、毒性学的に重大な意義のある所見と判断した。高用量群では、さらに振戦、閉眼などもみられており、区分2(神経系) とするのが妥当と考えた。長期または反復ばく露による神経系の障害のおそれ (区分2) 分類できない。

誤えん有害性

:

12. 環境影響情報

生態毒性

- 水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない。  
N-エチルモルホリンと同様に、急性有害性は低いと推察されるため、区分に該当しないとした。
- 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。  
N-エチルモルホリンと同様に、慢性有害性は低いと推察されるため、区分に該当しないとした。

残留性・分解性

- : データなし
- 生物蓄積性 : データなし
- 土壤中の移動性 : データなし
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

参考【N-エチルモルホリン〔CAS No.100-74-3〕のデータ】

生態毒性

- 水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない。  
藻類(Pseudokirchneriella subcapitata) 72時間ErC50>53 mg/L (SIDS, 2005)
- 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。  
急速分解性がない (BODによる分解度=0% (既存点検, 2004)) のもの、藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)の72時間NOEC (生長速度) = 23 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC = 99mg/L (いずれもSIDS, 2005) であることから、区分に該当しないとした。

残留性・分解性

- : 難分解性。BOD分解度=0%
- 生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Pow = 0.14
- 土壤中の移動性 : データなし
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。  
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
(参考) 燃焼法  
可燃性の溶剤に溶解し噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で、出来るだけ高温(ダイオキシン発生抑制のため850℃以上)にて焼却する。

汚染容器及び包装

- : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って

適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に  
処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制（適用法令）
- 陸上規制 : 特段の規制なし（非危険物）
  - 海上規制 : 特段の規制なし（非危険物）
  - 航空規制 : 特段の規制なし（非危険物）
  - 国連番号 : 非該当
  - 国連分類 : 非該当
  - 品名 : 非該当
  - 海洋汚染物質 : 非該当
  - MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
- 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 非該当
- 化審法 : 本品はN-エチルモルホリンの付加塩のため、旧第二種監視化学物質の該当。  
No.914「4 - エチルモルホリン」(官報公示日:2008/03/21)
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 消防法 : 非該当
- 化学物質排出管理促進法(PRTR法) : 非該当〔2023年(R5年)4月1日施行にも非該当〕
- 船舶安全法 : 非該当
- 航空法 : 非該当
- 水質汚濁防止法 : 生活環境項目（施行令第三条第一項）  
「水素イオン濃度」  
〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの  
5.8以上8.6以下  
・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下  
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」  
〔排水基準〕160mg/L 以下(日間平均 120mg/L 以下)  
「窒素の含有量」  
〔排水基準〕120mg/L 以下(日間平均 60mg/L 以下)  
(注)排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合はそれに従うこと。
- 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制（別表第1の16項）  
第29類 有機化学品  
HSコード:2934.99  
・輸出統計番号(2023年1月版):2934.99-000  
「核酸及びその塩(化学的に単一であるかないかを問わない。)並びにその他の複素環式化合物  
- その他のもの:その他のもの」  
・輸入統計番号(2023年2月21日版):2934.99-099  
「核酸及びその塩(化学的に単一であるかないかを問わない。)並びにその他の複素環式化合物  
- その他のもの:その他のもの  
- 2 その他のもの - その他のもの」

16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献:

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ                                    | 化学工業日報社                    |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ   | 化学工業日報社(2007)              |
| 化学物質の危険・有害便覧  | 中央労働災害防止協会編                |
| 化学大辞典   | 共同出版                       |
| 安衛法化学物質   | 化学工業日報社                    |
| 産業中毒便覧(増補版)   | 医歯薬出版                      |
| 化学物質安全性データブック   | オーム社                       |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)   | 三共出版                       |
| 化学物質の危険・有害性便覧   | 労働省安全衛生部監修                 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM |                            |
| GHS分類結果データベース   | nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報  | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP   |

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

N - エチルモルホリン塩酸塩〔4 - エチルモルホリン塩酸塩〕

改訂日:2023/03/01

---

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。